

「元気フェスタ PartⅢ」 活動

活動代表者 古川 照美

印

I. はじめに

地域活動への学生参画をとおして、地域住民のヘルスリテラシーの向上を支援する、「健やか力（ヘルスリテラシー）向上サポート活動」につながることを意図し、看護学科2年生必修科目である「家族援助論」において、非常勤を含めた看護学、教育学、心理学の教員が個別の家族支援から地域の家族支援の具体的事例を教授しながら、健康教育を主とした家族支援の実際を地域に出向いて行う教育プログラムを実施した。

II. 目的

本活動の目的としては、以下の点があげられる。

1. 学生のヘルスリテラシー向上

青森県としての地域特性、家族支援の具体的方法、健康教育の方法を学んだ上で、地域のなかで健康の保持増進に関する家族支援の実際を企画・準備・実践してみることで、学生自身のヘルスリテラシーと地域活動意識の向上を目指す。

2. 住民(青森県)のヘルスリテラシー向上

多様な形態がある家族に対する、学生による様々な教材を用いた健康教育等により、住民のヘルスリテラシー向上につながる可能性がある。

上記目的に加え今年度の本活動の目指す目標としては、昨年度の実施状況を踏まえ、本活動が学生のヘルスリテラシー向上につながったかなどを、昨年を引き続き、客観的に評価する。また、住民の参加者の増員を目指す。

III. 活動方法

「家族援助論」の授業のねらいは、家族に関する基本的な知識のほか、家族看護、家族支援の具体的方法について理解し、地域における家族支援の実際を通して、学生が積極的に地域のさまざまな活動に主体的に関わることができるよう、学生のヘルスリテラシー向上を目指すこと、としている。

これまでの実施状況を踏まえ、住民参加者の増員を目指し、会場と実施日を検討した。7月には会場候補を探し、9月に仮予約し、会場となる青森県観光物産館アスパムの関係者とも日程調整や使用機材の確認などを行った。実施日を1月に設定し、季節的なところを考慮し、周知のためにチラシを作成し(写真①)、学祭、青森市の健康関連のイベント、青森市健康づくりリーダー研修会、青森県保健医療福祉研究発表会等での配布、関係機関への投げ込みなど行った。

11月～12月に、下記のプログラムのように学生の家族に関する基本的な知識、地域社会活動につながる知識・技術のほか、家族看護、家族支援の具体的方法と、ヘルスリテラシーに関する、地域における家族支援プログラムの企画立案し、1月21日(日)に実施した。





【写真①】

IV. 活動結果 (または「成果」等)

1月21日(日)に青森県観光物産館アスパムで「元氣フェスタ! PartⅢ」を実施した。保健大学看護学生116名の他、弘前大学から3名、弘前学院大学から10名の学生が参加し、15の企画を実施した。15の企画ブースは①血圧測定 ②血管年齢測定 ③ストレスチェック ④認知症 ⑤歯科口腔 ⑥育児体験(写真②) ⑦ストレッチ体操(写真③) ⑧骨密度測定 ⑨体組成測定 ⑩体力測定 ⑪視力測定 ⑫ハンドマッサージ ⑬ヘッドマッサージ ⑭子どもの遊び場(弘前大学の企画) ⑮げんきっさ(弘前学院大学の企画)である。げんきっさでは、青森県の郷土料理である「けの汁」をスタンプラリーのスタンプ獲得者にふるまった。また、本学のヘルスリテラシー向上部の栄養学科チームから3名加わり、「けの汁」について栄養学的な教育を実施した(写真④、⑤)。



【写真②】



【写真③】



【写真④】



【写真⑤】

参加者は、15の企画ブースの中ではストレスチェック 112名、骨密度測定 118名、血圧測定 109名と多く、少ないブースの血管年齢測定で 20名、歯科口腔でも 35名と昨年度に比べ、全体的に大幅に来場者が増加した。

授業の振り返り時に、学生に来場者(住民)のヘルスリテラシー向上につながったか考察させ、以下の内容があげられた。

○自分たちが実施したことについて、今後、実践していきたいと答える人が多く、ヘルスリテラシー向上につながったと考える。実施後のアンケートにおいて実生活で生かしていきたいと回答した人が多かったため、意識の向上につながったと考える。

○各テーマのブースで自分の身体について考え、見直す良い機会になったのではないかと考える。楽しそうにしていた様子が見られたので、楽しく生活習慣を改善するきっかけになったのではないかと思う。

○例えば「ストレスチェック」のブースで少しストレスが高くなったとき、他のブースの「血圧測定」をして別の観点からみてみたり、「ヘッドマッサージ」をしてリラックスしたり、「ストレッチ体操」をして体をほぐしてみたりと、連携ができるのでよかったと思います。

○子連れの親子や仕事をしている中年の方も来場し、その人に合わせた支援が必要と感じた。地域に出て実践することで、データだけではわからない健康課題が見えてきて、共に解決していく糸口が見いだせると感じた。

V. 活動の総括

今年度実施した「元気フェスタ PartⅢ」は、昨年度より住民の参加が増え、各ブース合計した延べ人数は約 1,100名となり、大変好評であったことが伺える。1人あたり各ブースの滞在時間も昨年度より長かった。学生の達成感も高く、住民とともにヘルスリテラシー向上を目指せる本活動を次年度も継続していきたいと考える。

VI. 謝辞

ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

Ⅶ 活動構成員等

(チーム名：チーム家族)

	氏名	所属	役割分担
活動代表者	古川 照美	看護学科	活動全体にかかる調整・運営・統括
経費執行責任者	戸沼 由紀	看護学科	活動経費管理、地域における家族支援プログラム実践の支援
構成員	増田 貴人	弘前大学	家族支援プログラムに関するアドバイス、実践の支援
構成員	生島 美和	弘前学院大学	地域社会参加に関するアドバイス・調整、実践の支援
構成員	谷川 涼子	看護学科	家族支援プログラムに関するアドバイス、実践の支援
構成員	青森県立保健大学 学生	看護学科 2 年生・117 名	地域における家族支援プログラムの企画・準備・実践
構成員			
構成員			
構成員			
構成員			

※欄が不足する場合には、適宜行を挿入ください。

Ⅷ 活動経費（執行額）

(単位：円)

年度	活動経費	科目				
		報償費	旅費	需用費	役務費	備品購入費
平成 29 年度	336,577	0	0	335,335	1,242	0
総計	336,577	0	0	335,335	1,242	0

※活動経費執行内訳等の詳細は別紙「収支管理簿」のとおり。

平成29年度 健やかか力(ヘルスリテラシー)向上サポート活動

(チーム名: チーム家族)

(活動名: 元氣フェスタPartⅢ)

) 収支簿

(単位:円)

年月日	摘要	収入	支出	残額	支出費目				活動代表者	
					報償費	旅費	需用費	役務費		備品購入費
	配分	300,000		300,000						古川 照美
2012673	11月15日 ナラン印刷 元氣フェスタⅢ 片面カラー2000枚		43,200	256,800			43,200			戸沼 由紀
3	11月20日 事業計画変更に伴う流用	39,000		295,800						300,000
4	3月31日 事業計画変更に伴う流用(差額調整)	(800)		295,000						38,200
2012663	11月22日 血圧脈波装置専用プリンタートナー		8,100	286,900			8,100			
2013106	12月20日 唾液アミラーゼモニター用チップ 20枚入×10		32,400	254,500			32,400			新印刷興業
2013014	12月18日 観光バス 大型2台貸切(元氣フェスタⅢ)		108,000	146,500						シバタ医理科
2013198	1月5日 元氣フェスタPartⅢ 物品(文具系)		9,341	137,159			9,341			シバタ医理科
2013540	1月10日 アスパム会場使用料(元氣フェスタⅢ)		112,220	24,939				108,000		青森観光バス株式会社
2013287	1月17日 元氣フェスタPartⅢ 物品(食品)		4,488	20,451			4,488	112,220		株式会社マルキ
2013401	1月17日 宅配料(※弘前学院大学・生島美和先生)		1,242	19,209			1,242			青森県観光連盟
2013439	1月22日 ナガトヤカラーペーパー 特厚口用紙 他		17,586	1,623			17,586			生協佃店
13										クロネコヤマト
14										株式会社マルキ
15										
16										
	計	338,200	336,577	1,623			115,115	1,242	220,220	

活動費の増額については、
第2回HL向上サポート委員会にて承認